

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームこもれび (つつじ)		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&Ujvsvyocd=2296900083-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和5年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者は一日の流れが概ね決めてあり、運動を取り入れメリハリのある生活を送っています。認知症予防に力を入れており、毎日レクの内容を変えています。年間の行事はレク担当があり、2ヶ月前から計画し準備しています。外出は少しずつ行っています。施設内の駐車場で日光浴、外気浴を行っています。施設の中で季節を感じて頂けるように壁画を毎月変えています。職員は全員常勤で介護福祉士が80%おり、介護経験が長く利用者の体調の変化にも対応出来ています。管理者が看護師であり、協力医と連携が取れており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から入居する利用者の重度化が進み、平均介護度が3を超える期間が長く続いて、この一年で8名を見送りました。職員のこまやかな気づきで体調悪化の予想は速やかに看護師へ報告が上がり、24時間対応可能な協力医へつなぐられ、安心の医療体制が利用者と家族を支えています。開設から8年、「最期はここで看取ってほしい」と希望する家族の想いを受け止めて看取った利用者は21名となり、退去した人の家族が介護相談に訪れ、「以前はどこに相談したらよいかわからなかったが、ここを信頼している。今はここに相談すればいいと思って」という言葉が、「拠り所」としての確立を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を施設内に掲示している。職員の心得は休憩室に掲示している。又、職員研修を通して意識付けをしている。今年は、職員でうれしかった事、感謝した事などを花びらに書いて木に貼り、満開の桜を目指している。	研修による周知・理解と目標設定、達成状況の確認でマネジメントサイクルにのせています。職員休憩室に桜の幹を描き、利用者に言われて嬉しかったことや感謝の気持ちを記した花びらを貼り、「こもれび桜」の満開を目指す一体感がモチベーションアップにつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りには、屋台を駐車場でもたり、市民マラソン大会では、施設の前で旗を持ち応援した。地域のボランティアの慰問の受け入れをしている。中学生の福祉実習を10月に予定している。	秋祭りや市民マラソンといった地域行事が通常開催される中、事業所でも9月に日本舞踊、11月にはアコーディオンのボランティア、中学生の職場体験実習受け入れを予定し、コロナ禍以前の交流が戻りつつありますが、感染予防対策を講じつつ慎重に進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、管轄の地域包括支援センターと地域づくり協議会福祉部会の依頼により、『認知症サポーターステップアップ講座』の施設説明と体験実習の受け入れを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度からご家族代表、自治会長、民生委員、高齢者支援課、包括の方に出席して頂きホームの活動報告を2か月に1度開催している。現状がよりわかるように写真も取り入れ報告をしている。	活動の様子や表情豊かな写真を添えた資料には「グループホームでの生活がわかりやすい」「楽しそうですね」といった評価を得ています。地域代表からは祭典の屋台運行に先立ち、事業所駐車場にも立ち寄ってもらえる情報提供があり、心弾ませる出迎え準備に結ばれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に高齢者支援課職員の方に出席して頂き助言を頂いている。毎月、入居状況を報告している。	運営推進会議には毎回、市高齢者支援課、地域包括支援センター職員の出席があります。今年度は地域包括支援センターからの依頼で『認知症サポーターステップアップ講座』における施設説明と体験実習を迎え入れ、認知症に対する理解を深める取組への協力体制を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んだ。おむつ交換時職員をつねる、叩く、噛みつきをする入居者がいた。職員と話し合い、おむつ交換を2人で行い、職員が厚い手袋をはめ拘束せず介護を行った。職員研修で身体拘束を勉強している。	委員会、研修は指針に沿って滞りなく開催されています。不潔行為や介護抵抗がある利用者には「～と言葉かけるといいよ」「手を持たない方が落ち着く」「職員二人で」といった工夫を共有して穏和に対処できる方法を探り、拘束のないケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための指針を作り虐待防止委員会を開いている。施設全体で虐待防止の研修をしている。職員同士の情報交換を行い虐待防止に向けて、共通の意識を持ち虐待が見過ごされることが無いように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を付けている入居者がいるので、後見人の必要性など知る事ができた。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告し、家族から意見や要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。意見箱を置き、いつでも意見が言えるようにしている。	運営推進会議には順次1~2名の家族が出席し、地域代表や行政との意見交換がおこなわれている議事録を視認しました。毎月発行している「こもれび通信」には写真の他に「健康面」「生活面」の記述が添えられ、安寧な暮らしの継続がうかがえます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月会議を開き、困った事など相談ののって来ている。管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。職員からは、「ちょっと、相談が」と個人的に相談される事が多い。年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。	職員全員が常勤で、うち8割が介護福祉士資格を取得しています。開設当初から勤務する職員が半数以上を占めるチームでお互いを認め合い、重度化が進む利用者の状態に応じ、生活リズムに配慮した業務フローの提案があり、管理者への報告をもって実行されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がほぼ無い。個人面談の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて希望通りにとれている。家族状況、体調にあわせて勤務を変えている。有給休暇を毎月取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修を毎月行っている。新人には、1か月間指導しながらトレーニングを行っている。法人は実務者研修、認知症介護基礎研修の費用を支給している。ミャンマーの技能実習生を受け入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の前は他の施設の看護師が職場体験に来た事があったが、コロナ禍後は交流を控えている。ケアマネなど施設見学の希望時は受け入れをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント段階で、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言って頂ける信頼関係作りを努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認している。要望は介護計画に取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で洗濯干し、洗濯物量み、テーブル拭く、コップ洗い、縫物など役割を持って生活を送っている。認知症があっても年長者の発してくれる言葉に注意して、否定しないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍では、リモート面会、パーテーションを挟んで対面で面会を行っていた。コロナが5類になってからは、本人の居室で面会を開始した。外出、外食も開始したが、今年7月中旬にコロナ感染者が増え、居室での面会のみとした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になってから居室で面会を再開している。子供、兄弟、孫の面会がある。毎月、1ヶ月の様子がわかるようにこもれび通信を発行している。お正月には、全員家族に年賀状を送っている。	5類移行後、面会は事前予約で場所は居室、15分とし、外食や外泊もOKとしていましたが、感染者数の増加により一時的にストップしています。在宅の頃から愛読していた新聞を継続する人や、洋裁が得意な人は小物作りに精を出したりと、入居前の暮らしをサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子もある。話が少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族が、入居者だった方の妻が介護が必要となり「前はどこに相談したらよいかわからなかった。ここを信頼している。今はここに相談すればいいと思って」と相談にきてくれた。居室のケアマネに話をつないだ。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。合わない入居者同士は席を離している。介護計画書を作成前は本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に会った支援が出来るようにしている。	何気ない日常の会話から「～が食べたい」「～へ行きたい」といった言葉を聞き取って、個人記録への記載とともに申し送り、実現しています。利用者間のトラブルには双方の気持ちを尊重し、気持ちが鎮まるまで、落ち着いて気持ちを吐き出せる居室で話を聴いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族やケアマネからも情報収集している。自宅にあった椅子やタンスを使用している方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握	帰宅願望、被害妄想がある人、不定愁訴の		

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	方には、その都度対応している。夜間暴言を言う利用者がサ高住に住んでおり生活できなくなりグループホームに入所となった。その後グループホームでは落ち着いて生活できるようになった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画書を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。	介護支援専門員による3ヶ月毎のモニタリングと、職員を招集したサービス担当者会議で現状把握と課題が話し合われ、6ヶ月毎ならびに体調変化があった際、現状に即した介護計画を作成しています。本人への聞き取りとともに家族意見は事前に面会や電話で聴取しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iパットを使用し、血尿やケガをした時は写真を撮り、看護師や、主治医に報告している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事が少ない時は、栄養ドリンクを家族に依頼している。介護靴ではなく、おしやれな靴を履いている方もいる。エアコンをつけても消してしまう方には扇風機をもってきてもらった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り、マラソンなど)応援したり、ボランティアの方に来訪してもらったりしている。近くの施設に見学に行かせてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調悪い時はいつでも対応してくれている。コロナワクチンも接種してくれた。接種時体調を全て把握しているので安心だった。	職員の気づきと体調悪化への不安は、看護師資格を持つ管理者への報告から速やかに医師へとつながれ、24時間対応してもらえる安心の医療体制があり、全員が協力医に変更しています。さらに本部が薬局であることも心強く、週末でもスムーズな処方が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、指示を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので、褥瘡処置、創処置、洗腸、点滴、血糖測定など医療行為ができています。看護師は協力医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は当日に入院サマリーを送り情報提供をしている。退院時は、病院の地域連携室の相談員から状態を聞いている。病院から紹介してもらい入所する事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話合いを持ち、本人、家族の希望と事業所のできる合意の所で支援していく。協力医は突発的な病状の変化にも24時間対応できる体制をとってくれている。看取りをやっている。	開設以来21名を看取っている実績があり、看護師である管理者と協力医の迅速な対応のもと、本人が好きな口当たりの良い食べ物を試したり、褥瘡予防と安楽な姿勢に留意しながら、看取りケアプランに沿ったこまやかなケアで穏やかな最期を迎えています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が職員に緊急時の対応の勉強を行っている。ADEが施設内にあるので年1回研修を行っている。救急車の呼び方も一人ずつ行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。放水訓練や、自家発電機の使用方法も訓練している。災害時、福祉避難所になっている。停電に備え、入居時ランタンを準備してもらっている。	福祉避難所の指定を受け、自家発電機はエレベーターと厨房電力を賄うことができ、飲料水となるタンクも備えています。年2回の訓練では地震・火災想定で、通報～初期消火～避難までの流れをどの職員も体験できていますが、夜間想定訓練については課題を残しています。	館内の防災設備の確認とともに、専門家の意見も取り入れながら実効性のある夜間想定訓練がおこなわれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ事を何度も言っても、一人ひとりの人格を尊重して話をしている。部屋やトイレに鍵をかける人には、職員が入らないようにしている。	年度初めの研修には「介護職員の心得」として接遇をテーマに位置づけ、「認知症を抱えていても年長者として敬う気持ちを持って否定はしないこと」を意識づけしていますが、理解しながらも、つい強い口調となってしまう場面もあり、互いに注意を促しています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、入居者の名前がわからないをと言うので、名札を作ったり、新聞を見たいと言うので新聞を読んでもらったり、花の名前がわからないと言うので調べ書いて貼っておいたり希望を叶えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時がある。強制的に参加ではなく、その時間に部屋で新聞を読んでいたりと、テレビをみたり、ベッドで横になっている人もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、整容の支援をしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月、美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員でおやつを作ったり、季節の行事食(おせち料理、年越しそば、クリスマス用チキン、鰻丼)を楽しみにしている。配膳の準備をしてもらっている。食事が少ない方は家族と相談し、栄養ドリンクを購入してもらっている。	一階厨房より利用者一人ひとりに合った食事形態で三食が提供されており、目先を変えた時節ごとの行事食が喜ばれています。栄養士、管理者、施設長で毎月給食会議を開き、検食簿の意見も取り入れながら、飲みみやすく、利用者の好みに合った食事について話し合っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつでの摂取量、水分を把握し管理している。飲み込みの機能低下がみられる方には刻み食、ミキサー食、ソフト食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。スポンジブラシを使用している人もいる。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。便秘、尿意が訴えない方は、トイレでなるべく排泄出来るように時間に誘導している。夜間はセンサーを設置し、起きたらトイレに誘導している。	排泄パターンを掴むことによって、紙パンツに頼っていた人が布パンツとパッドの併用になったり、パッドが不要となった例もあります。日中は、立位が不安定でも職員二人介助による支援でトイレでの排泄とし、夜間は吸収量の多いパッドの使用で安眠を重視する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日や職員を変えている。夜間おむつの中に手を入れ髪、服、ベッド回りに便をつける事がある。その時は、夜間シャワー浴をする時がある。	浴槽を跨げない場合は機械浴やシャワー浴で対応し、拒否がある人には、早めに「今日はお風呂です」と伝えたり、時間や日を変えて無理強いせず誘っています。冬期は脱衣室が寒くないよう十分暖め、「熱湯好き」「ぬる湯好き」「一番風呂が好き」を把握して準備しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のあわせて居室の温度、湿度、灯り等安眠できるようにしている。電球をつけたまま寝たい人には付け、暗いほうがいい人は扉のガラスに黒い幕をはっている。エアコン嫌いな人は扇風機を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。会社が薬局である。薬に困った時は薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	証券会社に勤めていた方は、日経新聞を毎日読んでいる。洋裁の先生には、縫物をやっってもらっている。家族にコーヒーやアイス、チョコ、果物など持ってきてもらう事もある。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染者が減ってきたので少しずつ外出をしている。紫陽花、コスモス、桜、水車など見に入込みのない所に外出している。施設内駐車場で日光浴、外気浴をしている。コロナが5類以降家族と外食していたが、現在中止している。	階下の駐車場に降りて季節の風を体感したり、コロナ禍でも人混みの少ない時間帯や場所を選び少人数でドライブに出かけています。レンガ造りの門と塀が印象的な旧赤松家記念館、枯山水庭園鑑賞や長閑な水車の里、休耕田のコスモス畑など、職員の情報収集が役立っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々家族に手紙を出している方もいる。利用者全員が年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしています。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。桜や紫陽花など季節の花や雛人形、五月飾りをフロアに飾っている。	多機能ホームとして4階建ての館内は常に快適な温度が保たれ、一年の気温差を感じることなく過ごせる環境になっているため、移り変わる四季の飾りつけは欠かせません。職員が持ち寄る桜や紫陽花、雛人形や五月飾りとともに壁画制作にも力を入れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は利用者同士が居心地がよいように配慮している。トラブルになった場合は席を変える事もある。又、フロアのテーブルは空間を持って配置しており、自由に移動できる。ソファで談笑する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機、位牌などがあり、思いでの写真、子供、孫の写真が飾ってある。母の日に送ってもらった品物が飾ってある。	全室介護用ベッドが備え付けられ、家族や孫の写真が見守る中、夕食後には居室のテレビを見ながら就寝までの時間をゆっくり過ごす人もあります。ベッドからのずり落ち対策として衝撃緩和のために敷布団を設置するケースもあり、安全面への計らいがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを利用し、下肢運動をしている。広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。センサーを設置し転倒予防に努めている。コロナウイルスの感染に備えて陰圧装置を一台利用者の部屋に設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社健康第一調剤薬局		
事業所名	グループホームこもれび (くすのき)		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21-4		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&Ujvsvyocd=2296900083-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者は一日の流れが概ね決めてあり、運動を取り入れメリハリのある生活を送っています。認知症予防に力を入れており、毎日レクの内容を変えています。年間の行事はレク担当があり、2ヶ月前から計画し準備しています。外出は少しずつ行っています。施設内の駐車場で日光浴、外気浴を行っています。施設の中で季節を感じて頂けるように壁画を毎月変えています。職員は全員常勤で介護福祉士が80%おり、介護経験が長く利用者の体調の変化にも対応出来ています。管理者が看護師であり、協力医と連携が取れており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初から入居する利用者の重度化が進み、平均介護度が3を超える期間が長く続いて、この一年で8名を見送りました。職員のこまやかな気づきで体調悪化の予想は速やかに看護師へ報告が上がり、24時間対応可能な協力医へとつながれ、安心の医療体制が利用者と家族を支えています。開設から8年、「最期はここで看取ってほしい」と希望する家族の想いを受け止めて看取った利用者は21名となり、退去した人の家族が介護相談に訪れ、「以前はどこに相談したらよいかわからなかったが、ここを信頼している。今はここに相談すればいいと思って」という言葉が、「拠り所」としての確立を示しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を施設内に掲示している。職員の心得は休憩室に掲示している。又、職員研修を通して意識付けをしている。今年は、職員でうれしかった事、感謝した事などを花びらに書いて木に貼り、満開の桜を目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	秋祭りには、屋台を駐車場でみたり、市民マラソン大会では、施設の前で旗を持ち応援した。地域のボランティアの慰問の受け入れをしている。中学生の福祉実習を10月に予定している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、管轄の地域包括支援センターと地域づくり協議会福祉部会の依頼により、『認知症サポーターステップアップ講座』の施設説明と体験実習の受け入れを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和4年度からご家族代表、自治会長、民生委員、高齢者支援課、包括の方へ出席して頂きホームの活動報告を2か月に1度開催している。現状がよりわかるように写真も取り入れ報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢者支援課職員の方へ出席して頂き助言を頂いている。毎月、入居状況を報告している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んだ。おむつ交換時職員をつねる、叩く、噛みつくような入居者がいた。職員と話し合い、おむつ交換を2人で行い、職員が厚い手袋はめ拘束せず介護を行った。職員研修で身体拘束を勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための指針を作り虐待防止委員会を開いている。施設全体で虐待防止の研修をしている。職員同士の情報交換を行い虐待防止に向けて、共通の意識を持ち虐待が見過ごされることが無いように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を付けている入居者がいるので、後見人の必要性など知る事ができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告し、家族から意見や要望を聞いている。家族から出た要望は、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。意見箱を置き、いつでも意見が言えるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月会議を開き、困った事など相談にのってくれている。管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。職員からは、「ちょっと、相談が」と個人的に相談される事が多い。年2回、管理者は職員と個人面談を行い、本人の要望や意見を聞き、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。時間外勤務がほぼ無い。個人面談の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて希望通りにとれている。家族状況、体調にあわせて勤務を変えている。有給休暇を毎月取得している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修を毎月行っている。新人には、1か月間指導しながらトレーニングを行っている。法人は実務者研修、認知症介護基礎研修の費用を支給している。ミャンマーの技能実習生を受け入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の前は他の施設の看護師が職場体験に来た事があったが、コロナ禍後は交流を控えている。ケアマネなど施設見学の希望時は受け入れをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント段階で、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミュニケーションを大切に何でも言ってもらえる信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認している。要望は介護計画に取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で洗濯干し、洗濯物畳み、テーブル拭く、コップ洗い、縫物など役割を持って生活を送っている。認知症があっても年長者の発してくれる言葉に注意して、否定しないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍では、リモート面会、パーティーションを挟んで対面で面会を行っていた。コロナが5類になってからは、本人の居室で面会を開始した。外出、外食も開始したが、今年7月中旬にコロナ感染者が増え、居室での面会のみとした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になってから居室で面会を再開している。子供、兄弟、孫の面会がある。毎月、1ヶ月の様子がわかるようにこもれび通信を発行している。お正月には、全員家族に年賀状を送っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。又、自由に席を移動し談笑する様子もある。話が少くない利用者には職員が声掛けを多くしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族が、入居者だった方の妻が介護が必要となり「前はどこに相談したらよいかわからなかった。ここを信頼している。今はここに相談すればいいと思って」と相談にきてくれた。居宅のケアマネに話をつないだ。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。合わない入居者同士は席を離している。介護計画書を作成前は本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った支援が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。家族やケアマネからも情報収集している。自宅にあった椅子やタンスを使用している方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	帰宅願望、被害妄想がある人、不定愁訴の方には、その都度対応している。夜間暴言を言う利用者がサ高住に住んでおり生活できなくなりグループホームに入所となった。その後グループホームでは落ち着いて生活できるようになった。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iパットを使用し、血尿やケガをした時は写真を撮り、看護師や、主治医に報告している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事が少ない時は、栄養ドリンクを家族に依頼している。介護靴ではなく、おしゃれな靴を履いている方もいる。エアコンをつけても消してしまう方には扇風機をもってきてもらった。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り、マラソンなど)応援したり、ボランティアの方に来訪してもらったりしている。近くの施設に見学に行かせてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、夜間24時間対応できる体制を確保している。体調悪い時はいつでも対応してくれる。コロナワクチンも接種してくれた。接種時体調を全て把握しているので安心だった。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、看護師に報告し、指示を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので、褥瘡処置、創処置、浣腸、点滴、血糖測定など医療行為ができています。看護師は協力医と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は当日に入院サマリーを送り情報提供をしている。退院時は、病院の地域連携室の相談員から状態を聞いている。病院から紹介してもらい入所する事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話合いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は突発的な病状の変化にも24時間対応できる体制をとってくれている。看取りをやっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が職員に緊急時の対応の勉強を行っている。ADEが施設内にあるので年1回研修を行っている。救急車の呼び方も一人ずつ行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。放水訓練や、自家発電機の使用方も訓練している。災害時、福祉避難所になっている。停電に備え、入居時ランタンを準備してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ事を何度も言っても、一人ひとりの人格を尊重して話をしている。部屋やトイレに鍵をかける人には、職員が入らないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、入居者の名前がわからないをと言うので、名札を作ったり、新聞を見たいと言うので新聞を読んでもらったり、花の名前がわからないと言うので調べ書いて貼っておいたり希望を叶えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆と一緒にレクや運動をする時がある。強制的に参加ではなく、その時間に部屋で新聞を読んでいたたり、テレビをみたり、ベッドで横になっている人もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、整容の支援をしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月、美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員でおやつを作ったり、季節の行事食(おせち料理、年越しそば、クリスマス用チキン、鰻丼)を楽しみにしている。配膳の準備をしてもらっている。食事量が少ない方は家族と相談し、栄養ドリンクを購入してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	腎臓食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつの摂取量、水分を把握し管理している。飲み込みの機能低下がみられる方には刻み食、ミキサー食、ソフト食で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。出来る方にも声かけをしている。スポンジブラシを使用している人もいる。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。便意、尿意が訴えない方は、トイレでなるべく排泄出来るように時間で誘導している。夜間はセンサーを設置し、起きたらトイレに誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間など理解して、その人に合った介助をしている。水分摂取は一日5回とっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を職員を変えている。夜間おむつの中に手を入れ髪、服、ベッド回りに便をつける事がある。その時は、夜間シャワー浴をする時がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のあわせて居室の温度、湿度、灯り等安眠できるようにしている。電球をつけたまま寝たい人には付け、暗いほうがいい人は扉のガラスに黒い幕をはっている。エアコン嫌いな人は扇風機を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように連絡ノートに書いている。会社が薬局である。薬に困った時は薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	証券会社に勤めていた方は、日経新聞を毎日読んでいる。洋裁の先生には、縫物をやっってもらっている。家族にコーヒーやアイス、チョコ、果物など持ってきてもらう事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染者が減ってきたので少しずつ外出をしている。紫陽花、コスモス、桜、水車など見人込みのない所に外出している。施設内駐車場で日光浴、外気浴をしている。コロナが5類以降家族と外食していたが、現在中止している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持って安心できるなら、少し持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々家族に手紙を出している方もいる。利用者全員が年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな花や物を目印にしています。壁画は利用者が制作した物を季節に合わせて飾っている。桜や紫陽花など季節の花や雛人形、5月飾りをフロアに飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は利用者同士が居心地がよいように配慮している。トラブルになった場合は席を変える事もある。又、フロアのテーブルは空間を持って配置しており、自由に移動できる。ソファで談笑する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機、位牌などがあり、思いでの写真、子供、孫の写真が飾ってある。母の日に送ってもらった品物が飾ってある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	手すりを利用し、下肢運動をしている。広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。センサーを設置し転倒予防に努めている。コロナウイルスの感染に備えて陰圧装置を一台利用者の部屋に設置している。		